

地方議会活性化シンポジウム 2024

配布資料

日時：令和6年11月29日（金） 14：00～17：00

会場：日比谷コンベンションホール 及び オンライン配信

主催：総務省

共催：全国都道府県議会議長会、全国市議会議長会、全国町村議会議長会

◇目 次◇

■プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・	1
■パネルディスカッション1 資料・・・・・・・・	2
石田 宗久 氏 （京都府議会議長）・・・・・・・・	3
木村 諭史 氏 （東京都新島村議会議長）・・・・・・・・	13
丸山 国一 氏 （山梨県甲州市議会議員）・・・・・・・・	29
■パネルディスカッション2 資料・・・・・・・・	38
赤嶺 奈津江 氏 （沖縄県南風原町議会議長）・・・・・・・・	39
澤部 慶 氏 （茨城県取手市議会事務局次長）・・・・・・・・	49
中村 清香 氏 （熊本県熊本市議会 議会局次長）・・・・・・・・	58

◇プログラム◇

多様な人材が参画する地方議会の実現へのアプローチ ～課題への取組事例から考える～

14:00 開会・総務省挨拶

14:05 パネルディスカッション1

(地方議会に対する関心を高め、理解を深めるための取組事例)

【コーディネーター】

金崎 健太郎 氏 (武庫川女子大学経営学部教授)

【パネリスト(五十音順)】

石田 宗久 氏 (京都府議会議長)

木村 諭史 氏 (東京都新島村議会議長)

丸山 国一 氏 (山梨県甲州市議会議員)

15:25 休憩

15:40 パネルディスカッション2

(多様な人材の参画に係る課題に対する取組事例)

【コーディネーター】

辻 陽 氏 (近畿大学法学部教授)

【パネリスト(五十音順)】

赤嶺 奈津江 氏 (沖縄県南風原町議会議長)

澤部 慶 氏 (茨城県取手市議会事務局次長)

中村 清香 氏 (熊本県熊本市議会 議会局次長)

17:00 閉会

◆パネルディスカッション1◆

(地方議会に対する関心を高め、理解を深めるための取組事例)

【コーディネーター】

金崎 健太郎 氏 (武庫川女子大学経営学部教授)

【パネリスト (五十音順)】

石田 宗久 氏 (京都府議会議長)

木村 諭史 氏 (東京都新島村議会議長)

丸山 国一 氏 (山梨県甲州市議会議員)

パネルディスカッション1 資料

石田 宗久 氏

京都府議会議長

大学との連携事業による 学生・教員へのアプローチ

—大学との包括連携協定—

京 都 府 議 会



自己紹介



京都府議会 第83代議長

石田 宗久(いしだ むねひさ)

昭和41年5月15日生（58歳）

2003年から京都府議会議員を務め、現在6期目。総務・環境常任委員長、関西広域連合に関する特別委員長、予算特別委員長、議会運営委員長等を歴任。2023年から第83代京都府議会議長に就任。家族や地域社会のつながりを大切に、府民に信頼される身近な議会の取組に日々尽力している。

包括連携協定締結の経過について

【問題意識・課題】

- 社会問題・地域課題の高度化・多様化
- 施策の実施に当たって様々な府民、団体等と連携する必要性が増大
- 第33次地方制度調査会答申
住民等が議会により積極的に参加する機会の創出など、議会の機能を高めていく取組を重視



R5.7.4 議会改革に関する諮問

- ・多様な主体からの知見を取り入れる仕組みづくり
→議会運営委員会に議会改革検討小委員会を設置し検討（全8回）

R6.3.1 議会改革に関する答申

R6.3.18 京都府立大学との包括連携協定締結



荒巻議運委員長から石田議長に答申

京都府立大学との包括連携協定の締結①



▶京都府議会と京都府立大学は、令和6年3月18日に**包括連携協定を締結**しました。

▶府立大学の有する「知」と学生の「力」を府議会に取り入れ、**府議会の政策形成や大学の人材育成に協力**をして取り組んでいきます。

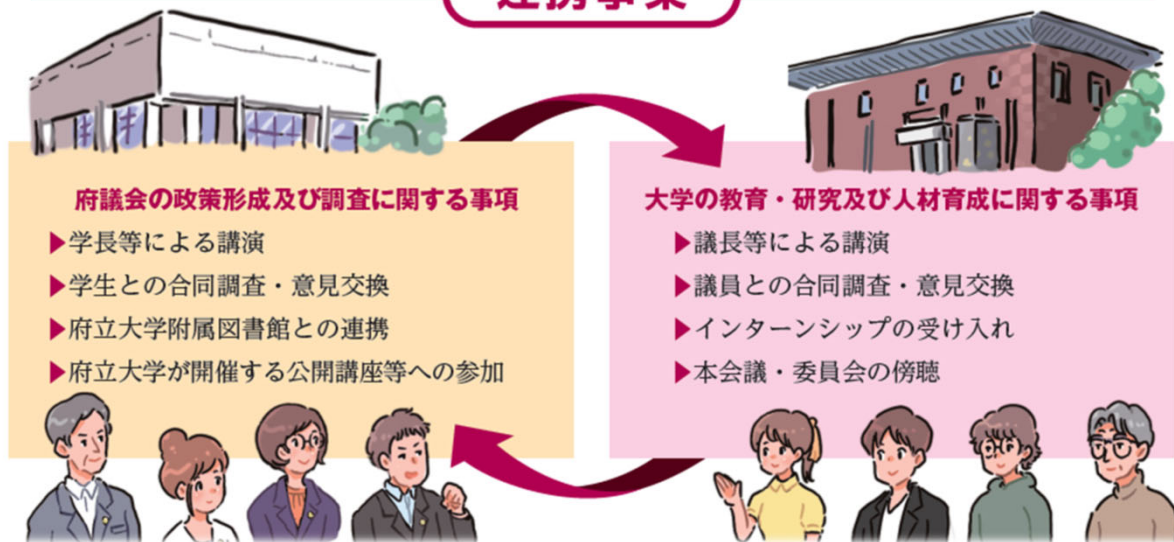


大学生の若い感性から刺激を受けて、議会の議論がより活性化することを期待しています。

学生および教員にとって、京都府の二元代表制の生の現場を学ぶ絶好のチャンスです。

京都府立大学との包括連携協定の締結②

連携事業



府議会の政策形成及び調査に関する事項①

◆学長等による講演

日時 令和6年9月20日 午前10時30分～11時45分

講師 京都府立大学 塚本康浩 学長

テーマ 「新生・京都府立大学について」



府議会の政策形成及び調査に関する事項② (大学の教育・研究及び人材育成に関する事項)

◆議員・学生との合同調査・意見交換

日 時 令和6年11月28日 午後

テーマ 「子育て環境日本一の取組について～若者の希望が叶う環境づくり～」

参加者 議員6名、学生8名、大学教授（服部公共政策学部長）

調査先等	概要説明	健康福祉部	子育て環境日本一の取組について（議会棟）
	現地調査	きょうと婚活応援センター（京都市中京区）	
		京都ジョブパーク・学生就業センター（京都市南区）	
		京都企業人材確保センター（京都市南区）	
	意見交換	議員・学生	

府議会の政策形成及び調査に関する事項③

◆京都府立大学附属図書館との連携

○府立大学の研究成果の活用

地域貢献型特別研究の成果を議会棟ロビーでパネル展示

期間 令和6年9月12日～12月下旬

○調査研究機能の充実

府立大学附属図書館カードの一括発行
(共同研究員に準じたサービス)

○府立大学附属図書館の見学会（利用説明会）



大学の教育・研究及び人材育成に関する事項①-1

◆議長等による地方議会制度の講演①

日 時 令和6年7月17日 午後0時50分～2時20分

テーマ 地方議会制度について

出席者 京都府立大学 公共政策学部 学生88名等



大学の教育・研究及び人材育成に関する事項①-2

◆議長等による地方議会制度の講演②

アンケート結果（主な意見を記載）

◆講演を聴いて政治や議会への意識が変わったか（括弧内はその理由）

- ・変わった …87%（議員の普段の活動を知ることができたため等）
- ・どちらともいえない…8%（具体的な政策の話まではなかったため等）
- ・変わらなかった …5%（従来知っている内容であったため等）

◆選挙があれば投票したいか

- ・投票したい …80%
- ・できれば投票したい…18%
- ・どちらともいえない…2%

◆講演で印象に残ったことや理解が深まったこと

- ・府議会議員の女性割合は全国3位の水準にもかかわらず2割程度と低いこと。
- ・全世代の投票率と比較し、若い世代の投票率がかなり低いこと。
- ・二元代表制、府議会の役割、議員活動等について理解が深まった。
- ・普段は接点がない議員から直接話を聴くことで政治を身近に感じた。
- ・議員は様々な府民の声を議会に届ける活動を日々行っていると分かった。



大学の教育・研究及び人材育成に関する事項①ー3

◆議長等による地方議会制度の講演③

[ようこそ京都府議会【9月15日放送分／京都府立大学との連携事業】\(youtube.com\)](#)



大学の教育・研究及び人材育成に関する事項②

◆インターンシップの受け入れ

実習生 京都府立大学 公共政策学部 3回生 1名

受入期間 令和6年9月2日～9月13日

- 主な実習内容
- 正副議長公務の準備・随行
 - 本会議等の準備・運営補助
 - 府議会の広報・広聴の企画・運営補助
 - 管外調査に資する先進事例の収集 等

実習生の所感 様々な業務の体験を通じて議会の事務に関わることで、知事と議長（議員）、執行部と議会事務局の違いについて理解が深まり、二代表制の「両輪」という意味を感じることができた。



出前高校生議会に出席している様子
(右手前)

大学の教育・研究及び人材育成に関する事項③

◆学生の委員会傍聴

学生が閉会中の常任委員会を傍聴し、委員会終了後、委員と学生で意見交換を行った。

日 時 令和6年11月25日 午後1時30分～

参加者 ●総務・警察常任委員会 学生7名

テーマ：多様な人材の活躍を可能にする職場環境の整備について

参考人：京都府立大学公共政策学部公共政策学科 准教授 河野 尚子氏

●危機管理・健康福祉常任委員会 学生6名

テーマ：大規模・広域災害等に備えた事業継続力強化のための防災・減災対策について

参考人：京都大学防災研究所 都市防災計画研究分野 教授 牧 紀男 氏

●文化生活・教育常任委員会 学生3名

テーマ：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の推進について

参考人：京都大学学生総合支援機構 障害学生支援部門 准教授 村田 淳氏

その他の取組について①

◆大学生との座談会（平成28年度～） 京都府議会だよりNO.55より

令和5年11月23日 京都府立大学 学生6人



【開催実績】

H28.12.13	府内大学生	7名
H29.12.14	府内大学生	4名
H31. 1.17	防犯ボランティア大学生	12名
R1.12. 1	京都学生祭典実行委員	5名
R3.12. 3	子育て支援団体※	5名
R4.12. 6	福知山公立大学生	7名
R5.11.23	京都府立大学生	6名

※大学生ではありません。

その他の取組について②

◆出前高校生議会（平成30年度～）

京都府議会だより NO.56より



令和6年1月19日 京都両洋高等学校



令和6年1月30日 府立洛東高等学校

【開催実績】

H30年度	11校	495名
R1年度	8校	293名
R2年度	1校（1）	8名
R3年度	4校（1）	356名
R4年度	5校（1）	123名
R5年度	7校	166名
計	36校（3）	1,441名

（ ）はオンライン開催内数

R6年度 6校開催予定

その他の取組について③

おこしやす

来て見て話そう 京都府議会

参加者募集中

◆おこしやす 来て見て話そう 京都府議会（令和6年度～）

【概要】

議場見学にお越しの児童・生徒・学生の皆さんに、府議会議員が直接、議会の仕組みや議場を紹介

【実績】

令和6年11月26日
木津川市立州見台小学校 約100名



まとめ

- 議会改革に関する不断の取組
- 開かれた府議会の推進

パネルディスカッション1 資料

木村 諭史 氏

東京都新島村議会議長

地方議会活性化 シンポジウム2024

パネリスト発表スライド
新島村議会議長 木村諭史

各パネリスト10分間の説明では、
重要箇所のみ説明します。

詳しくは配布資料をご確認ください。

また配布資料からリンク👉で
閲覧出来る資料もあります。

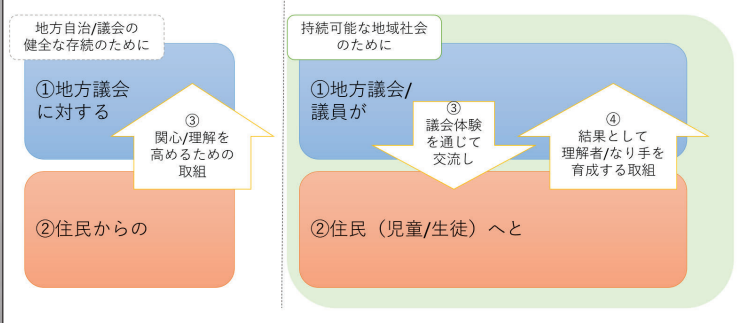
説明の構造と最後に提示する視点

1. 議会を学ぶ
2. 議員と学ぶ
3. 議会を通じて学ぶ

当議会の紹介と
事例の報告

探究学習
としての
取組を踏まえた
提案

地方議会への理解を高める取組のありかた



自己紹介 木村諭史（さとし）



- 工学博士（火山軽石を加工した商品開発）
- 新島村議会 議長（議員3期目最古参、最年少）
- 元：千葉大学客員准教授
講義『環境ビジネス』
ゼミの運営、大学生による地域活動↓
- 地域活動（婚活・ウエディングほか）
- 地元学校でも探究講義
- 探究学習/全国の教育旅行造成支援

一人で産官学連携
ワークショップは、
幼児の砂場から、地域のまちづくりまで

一村二島の新島村

人口：2429人

新島：1960人

小中/高校あり

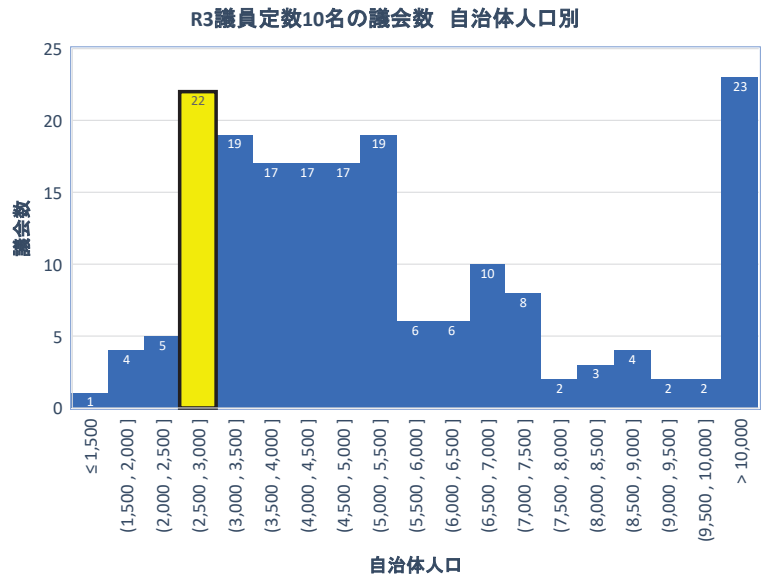
式根島：469人

小中一貫校



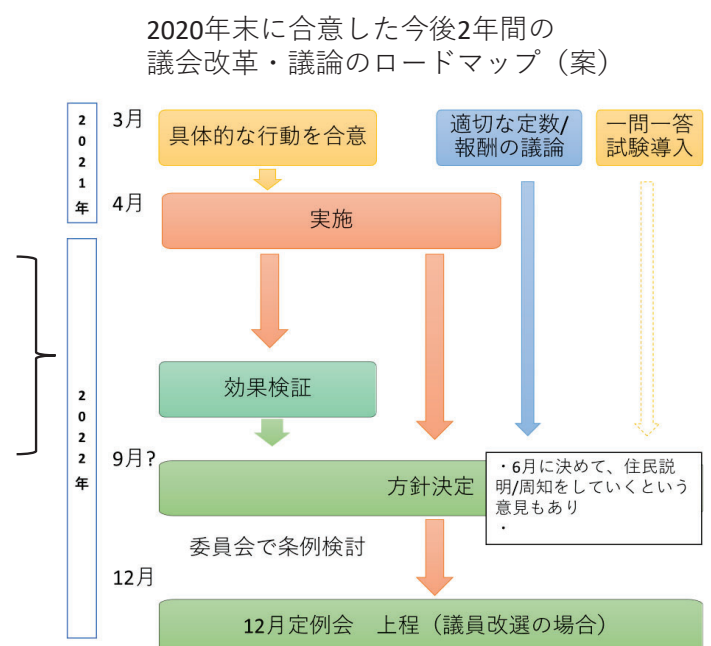
新島村議会を紹介 定数10名は適切か？

- 人口あたりの議員数は多い方
⇒1村2島の事情もある
- ほぼ毎回選挙が続いている。
私の初当選時はNHKニュースで取り上げられました。
- 前々回の2019年の議員選挙に際して
現職議員および有力候補者の
相次ぐ死去の影響をあって、
無投票となったことにより、
議員定数削減の議論が本格化



新島村議会における取組の経緯

- 木村1期目：総務常任委員会 副委員長 ⇒2016.12 委員長
- 2015.2 改選（選挙）
- 2018.9 議員定数削減の議論（総務）
木村2期目：総務常任委員会 委員長、副議長
- 2019.2 改選（無投票）
- 2019.6 議員定数削減の議論の再開
- 2022.2 議会体験（小6）
- 2022.6～ 議員と一緒に考える会
3地区およびオンライン開催
- 2022.8 議員定数 維持 採決
- 2023.1 新島研究（高3）ヒアリング
木村3期目：議長
- 2023.2 改選（選挙）
- 2024.2 議会体験（小6）
- 2025.2 議会体験（小6）予定



議員と一緒に考える会

・第一弾：地域振興

・第二弾：議員定数となり手

・3地区で意見交換

・オンラインでも開催

・大学教員、島出身高校生も参加

・第三弾：コロナ禍観光対策協議

・第四弾：視察報告を予定



6月に続いて行われた「議員と一緒に考える会」第2弾は、議会改革のご報告と議員定数を考える！の2本立てとなりました。

新島・式根島3会場で15名、10代から70代まで、幅広い年代の方にご参加いただきました。各会場でも時間一杯まで対話することができました。誠にありがとうございます。

※（会場名＋発言者イニシャル（名姓） 本：本村会場、若：若郷会場、式：式根島会場

議会改革の手応えは？

- ・議会の広報、ペーパーレス化、素晴らしいと思った。ずいぶん変わってきている。(本：HIさん)
- ・ICT機器が使えないと議員にならないということはないか？(式：HYさん) ←音声入力など便利な機能もある。習熟度は、折衷案を目安にしている。議会全体として強制ではなく勉強会など努力して取り組んでいる。(議員)
- ・一問一答方式：聞いている方が迷子になりづらい。(本：TNさん) 国会みたいで良いと思った。(本：SMさん) 細かく聞けて良い。(本：TKさん)

定数は削減が維持か？

- ・削減したほうが良いという話は聞かない。選挙活動以外の議員の活動が見えない。(式：TFさん)
- ・議員が何をやっているかわからない。プロとしての立場なのか、何人がかりでどれだけ働けるか？。(式：HYさん)
- ・判断基準が分からない。なぜ削減か？それで業務が回るのか？人口減は説得力はない。(本：HIさん)
- ・話を聞いて定数削減・維持、どちらも判断できない。無投票が衝撃的。村議選は絶対にやって欲しい。(式：HMさん)
- ・二択で話す内容ではないと思った。意見するにはそれなりに議員の仕事が分かってない。一緒に勉強を！(本：TNさん)
- ・30年前から選挙結果を集めている。やはり選挙になって欲しい。議員は定例会以外にも集まって！(若：HTさん)
- ・無投票でも得票率で信を問う方法があっても？(本：TKさん)



議員のなり手を増やすには？

- ・熱度があるほど際限が無い。その報酬ではおすすりづらい。人材不足で従業員を確保して出馬する選択肢がどれない。話す場を作り、人の間に入り、住民全体に興味をもってもらうように。(式：TFさん)
- ・高校生のときに興味なかったが、立候補者の選挙演説を聞いて関心をもてた。(本：SMさん) 街頭演説が終わるまで聞くよう、子に伝え、家族でも話している。ぜひ選挙になるように！(本：YMさん)

地方議会の主権者教育事例集に掲載

三議長会より発行（2024/6/28）県・町・市・村議会の取り組みを紹介

- ・全国都道府県議会議長会
- ・全国市議会議長会
- ・全国町村議会議長会

・村議会では唯一の掲載

・高校と小学校を跨ぐ珍しい事例

地方議会が進める 主権者教育事例集

リンク





議会体験のパターン



パターン 1：現職議員 ⇔ こども議員

現職議員が答弁



児童/生徒が議席



長所：議員の意欲が出る。逆の立場であるが議員らは比較的慣れている
短所：事前質問募集と事前回答準備など時間がかかる

パターン 2：執行部 ⇔ こども議員

児童/生徒が
一般質問

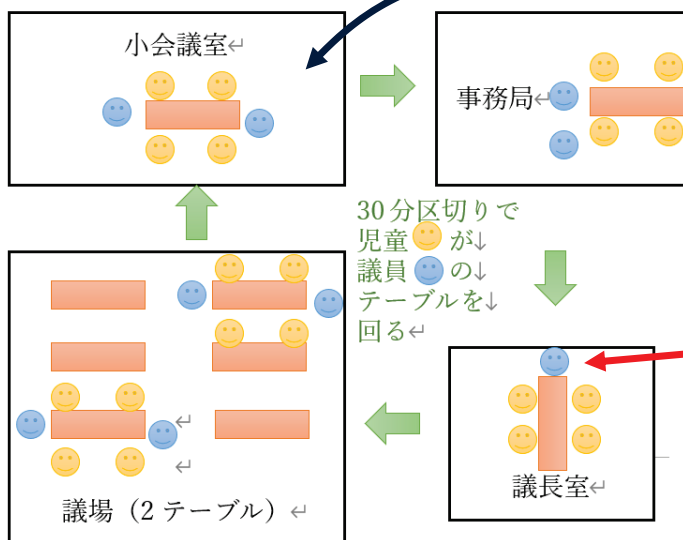


村長が答弁



長所：見栄えがいい。議場に立つ実感。
短所：渋めの答弁だと児童が凹む。満額回答だと現職議員が霞む

パターン 3：対話 ～少人数グループ方式～



長所：準備に時間がかからない。じっくり話せる。他の議員の目・耳が気にならない
短所：全員で一度に共有できない（児童/生徒で後で共有すれば可）

当議会での議会体験までの流れ



教員から
授業計画・
事前質問を
もらう

●行政に確認すべきもの

- 新島の予算はいくらあるんですか
- 村で一番、お金を使っていることは何ですか
- 村のお金をどんなことに使っているのか

議会事務局を
中心に回答準備

●議会概要として事前に伝えるべきもの

- 新島の条例はありますか
- どんなときに議会を開くのですか
- 議員にはどんな人がなれますか？何人いますか

出前授業
事前授業

●議員らと対話したいもの

- 村民の願いには、どのようなものがあるのか
- どうして、議員になったのか、大変なことは
- 新島の未来をどのように考えていますか

適した
対話方法の模索

村の予算はどんなもの？

事務局説明

一般会計	特別会計	基金
40億8976万円 (村の税収や都や国から補助金などで運営する事業)	25億5831万円 (自分でお金を作ること、生産すること)	

広報紙にいま
12月号を
見てみよう！

いししま

新島村議会

スライドへ



二回目



当議会での取組の特徴

議会側の特徴

- 人（幹事役）に依存しがち
- 議員が教員の親族
- 議員が児童保護者として
- 議員がゲストティーチャー

学校側の特徴

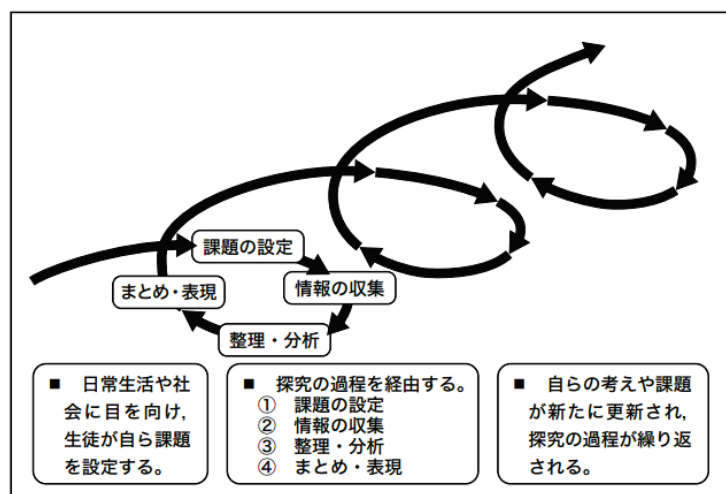
- 村内5校のうち2校で展開
⇒全校対応できる規模
- 実施は教員次第
- 実施する授業の形式
 - 社会、公民、現代社会など
 - 総合的な学習（探究）の時間

議会体験と 総合的な探究の時間をつなげる 知見の整理

探究学習とは？

児童や生徒が自ら課題を設定し、その解決に向けて情報を集め、整理や分析をしながら、独自の答えを探す学習活動のこと
👉 答えのない時代に、自ら課題を設定し取り組めるように

探究における生徒の学習の姿



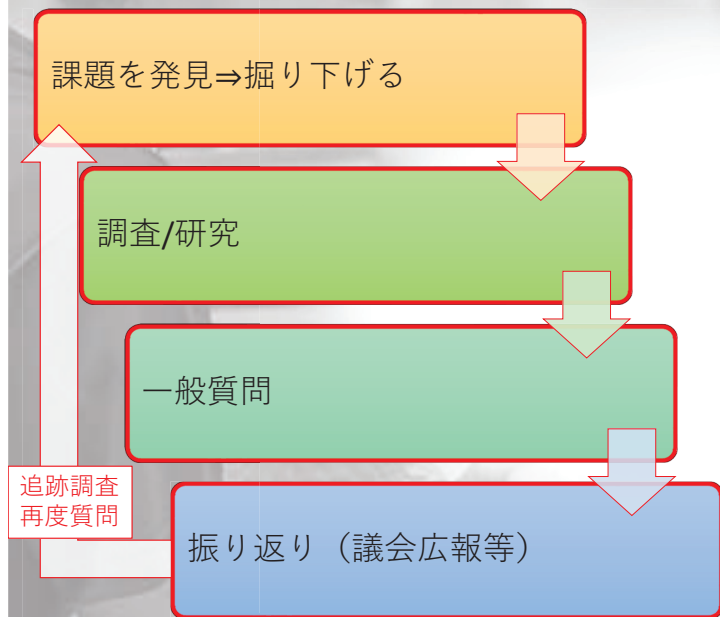
小学校・中学校 ：総合的な学習の時間

高校 ：総合的な探究の時間

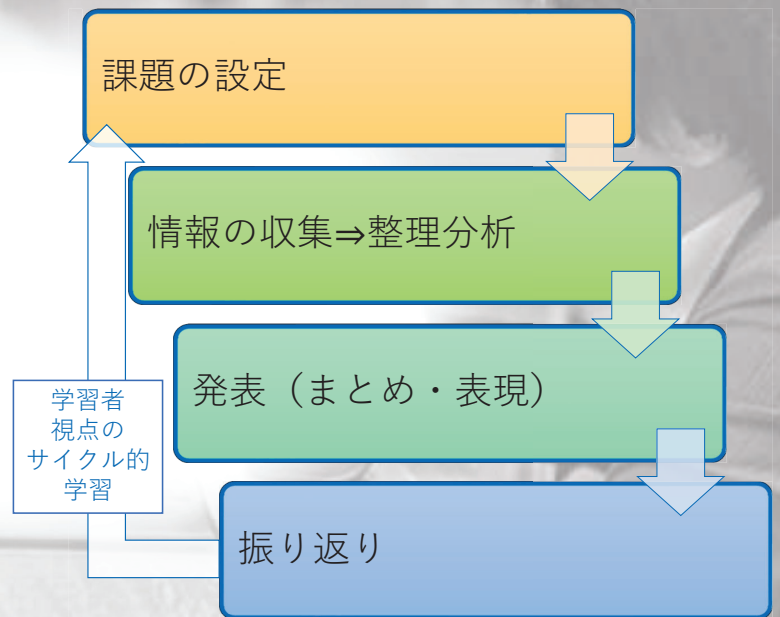
大学受験の総合型選抜と好相性。各地で導入が進む

議員活動と探究学習の共通点

一般質問サイクル

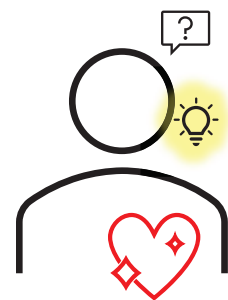


探究学習サイクル



新しい議員のなり手と探究学習の育成像

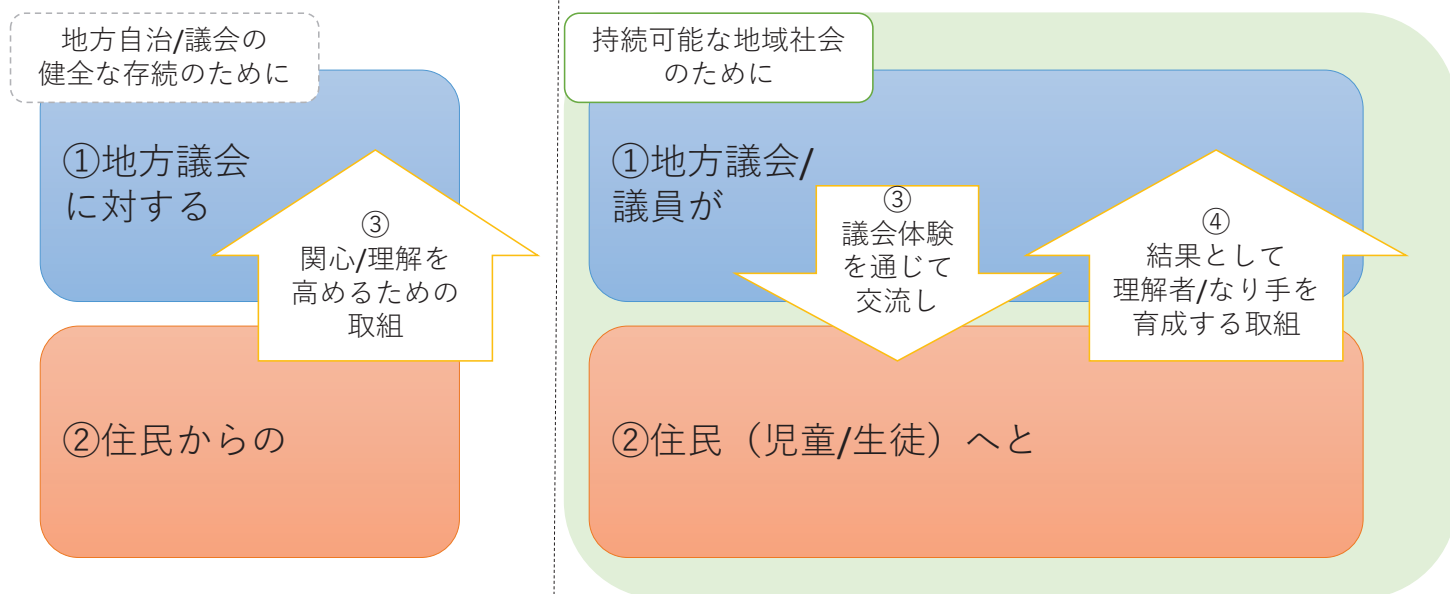
- ・ 自ら課題を設定できる
- ・ 調査研究できる
- ・ 自分なりにまとめて発表できる
- ・ 振り返りができる
- ・ 対話/協働できる姿勢（スキル）



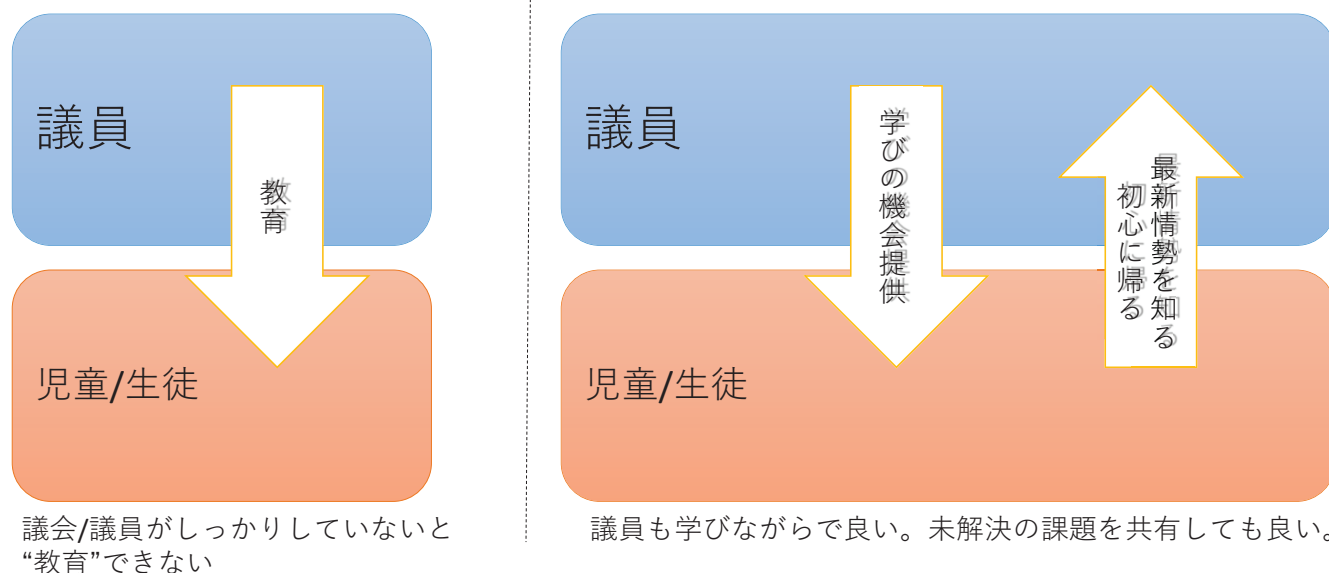
これからの社会に必要な要素を
教育現場に持ち込んでいるので、

自然と議員（および理解者）育成に繋がる

地方議会への理解を高める取組のありかた



地方議会への理解を高める取組のありかた



議会を通じた学びの課題と可能性

課題

- 教員側・議員側とも個人に依存しがち：継続性△
- 課題（社会問題）解決 偏重への打開
 - 時事問題豊富な議会だよりの活用可能性：◎
 - 議員による未解決の課題（話題）共有：◎
- 議員・教員・学習者間のツールと思考の前提の違い：☆
(探究学習・デジタルツール、ワークショップ開催等が当たり前の世代の到来)

提案

- 地域内でカリキュラム化・社会全体で体系化できると良い
- 議会を理解してもらう ⇒ 議会/議員との双方向へ

本シンポジウムが現状打開の一步となることを祈り、
参加させていただきました。
ご静聴ありがとうございました。

補足：縮小地域での議員の在り方を考える

- 人口減少、縮小、縮退と言われる地域において、公共私境が分かりづらくなる。
- 好意的に考えると、地域内・住民同士で、複数の役職・接点を担いつつ、お互いに関わり合えることはプラスに働く可能性もある。
- その際に、どのような意識が必要か？
- 人的資源の少ない地域でどのように議会が課題/話題を提供できるか？

教員向けオンラインセミナー資料
および、大学生向け講義資料より、
参考までに紹介します

議会だよりを地域探究へ活用すべく

各種オンラインセミナーへの登壇
各種の地域活動の知見を
探究学習に合わせて体系化をしつつ、
議会体験も紹介

地域探究サミット
2022 Spring

議会広報は、地域情報の宝庫！



事例から考える 地域探究の方法論

協力：株式会社トモノカイ

2024年 7月6日(土) 14:00~15:30 @Zoom



元・関西大学工学部教授
副学長 木村 諭史
(講師/モデレーター)

事例発表

株式会社トモノカイ
プロデューサー 小川 史晃
(登壇/企画)

東京トップアローズ株式会社
営業推進部長 市川 正治
(登壇/企画)

オンラインセミナーのスライド例

議会広報の内容は？

予算（3月定例会）や決算（9月定例会）の報告

- ・ 年間予算が、円グラフなどで理解しやすい ※行政の広報の場合も
- ・ 年間事業を一覧できる

条例などの各種審議

- ・ 今の争点が見える
- ・ 賛成/反対討論などの議論の過程が載っていることも

一般質問（議員が調査研究し、首長の施政方針を質す）

- ・ 議員の“探究活動そのもの”
- ・ 地域課題を把握しやすい

議会広報の入手方法は？

3, 6, 9, 12月にある定例会ごとに発行。
(早くて1ヶ月後)

- ・ なんと無料！

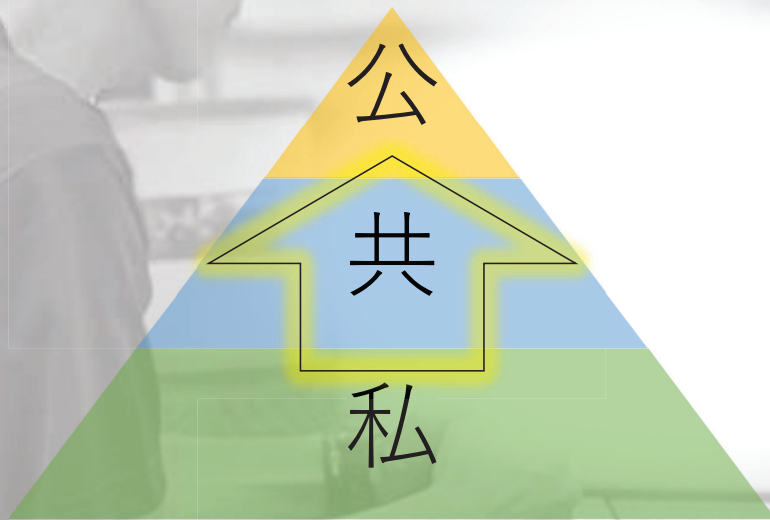
全戸配布していない地域の方が多い。

- ・ 要望して学校に送って貰うことも良いと思います。
- ・ むしろ貰ってほしい。興味をもってほしい。win-win
- ・ 表紙をこどもの写真にするのも、手に取ってもらう工夫です

議員になって6年間、広報編集副委員長が言うので間違いなし！

パブリックってなんだろう？ 結論

- 意識/志をもって、『私』を、『公共』に開いていく姿勢にある。



中央大学：パブリックコミュニケーション 木村講義スライドより

パブリックコミュニケーションするにしても

民意

大衆の欲望を元にした声

市民意識

市民意識を元した提案

中央大学：パブリックコミュニケーション 木村講義スライドより

補足：パネルディスカッション2向け

議会の開会時刻を9：00～16：00に変更

- 二島の連絡船最終便 および 保育園送迎などを意識

議会会期や公務スケジュールの見通しを共有

- 一ヶ月前などで日程を打診 ← 兼業せざるを得ないことへの配慮
- 会議当日は、開始前・休憩中に休憩・終了の時間的な見通しを伝える

タブレット端末の配布

- メモアプリで議題や議事録を常に共有 & 会議時は常に編集しつつ画面共有
- オンライン委員会や事前説明会などを実施
- 広報編集のクラウド化（デザインチームとの協働）

LINEオープンチャット機能の活用

- メンバー限定で、かつ、議員個人間で繋がらなくて済む
- FAX/電話連絡は実質的に廃止

兼業を含めた
なり手への配慮

（村職員も含む）

どこでも
議会/議員活動に
参加できる
体制づくり

パネルディスカッション1 資料

丸山 国一 氏

山梨県甲州市議会議員

甲州市議会における 主権者教育の取組

「キャリア教育出前授業」について

令和6年11月29日 地方議会活性化シンポジウム

甲州市議会議員 丸山 国一

○甲州市議会の紹介

- ▶ 定員17名(男性13人、女性4人) 40歳代3人、50歳代5人、60歳代6人、70歳代3人
- ▶ 定例会(年4回) 地元のケーブルテレビ及び動画配信サービスにて生中継(録画再放送もあり)
- ▶ 議会だより(年4回発行)
- ▶ 常任委員会(総務文教、厚生経済、予算決算)
- ▶ 議会運営委員会(定数8人)、議会広報編集委員会(定数9人)
- ▶ 他に議会改革研究会(所属議員8人)、子ども議会研究会(所属議員9人)



3月定例会号

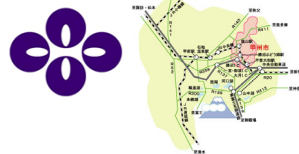


6月定例会号



9月定例会号

○甲州市の紹介



- ▶ 歴史と文化に彩られた果樹園交流のまち
- ▶ 人 口 29,201人(令和6年10月1日現在)
- ▶ 特 徴 甲府盆地の北東に位置し、扇状地を生かしたブドウやモモの果樹栽培が盛ん
※世界農業遺産に認定
- ▶ 特産品 ブドウ、モモ、カキ(枯露柿)、
市固有の白ブドウ品種である甲州種を使用した甲州ワインなど
- ▶ 歴 史 国宝を3つ有し、武田家ゆかりの史跡など文化財多数
- ▶ ワイン醸造発症にまつわる近代産業遺産も点在 ※日本遺産認定(日本ワイン140年史)
- ▶ 養蚕文化が色濃く残る甲州民家が数多く残る上条集落 ※重伝建認定地区



▲世界農業遺産に認定された勝沼のブドウ畑



▲重伝建地区の上条集落



▶枯露柿



菅田天神社所蔵
桶無鑑



向嶽寺所蔵
達磨図



大善寺
薬師堂



○取組の背景

- ▶ 選挙権年齢が引き下げられたことや、全国的な主権者教育の実施の流れを受け、本市においても小中学生の政治や議会への関心を高めてもらうため、取り組みを開始
- ▶ 翌年度に「子ども議会」を実施する事を目標に令和4年11月、甲州市議会内に子ども議会研究会を設置。(議員9名)
- ▶ 研究会でかかげた目的
 - ①未来を担う子どもたちが社会の一員であることを認識する
 - ②シチズンシップ教育の推進する
 - ③子どもたちの視点からまちづくりを考える
 - ④議会や行政の意義やしぐみを理解する
- ▶ ①～④を実現するためには「子ども議会」開催だけでは不十分。
- ▶ もっと多くの児童生徒に主権者教育をするため議員が直接学校へ。

○主な取組

▶キャリア教育出前授業

令和5年5月、令和6年5月実施

▶子ども議会

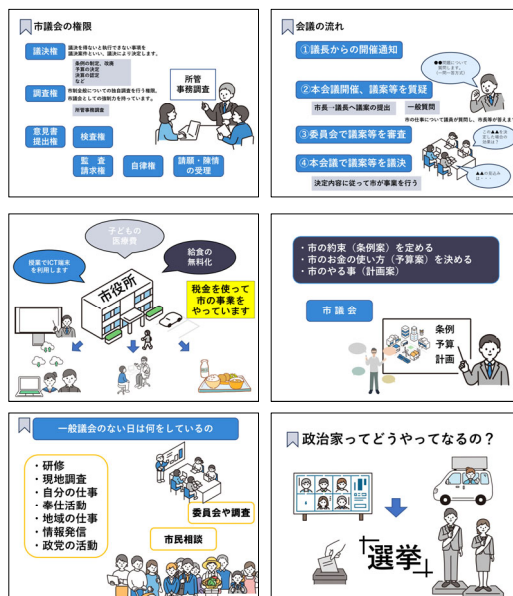
令和5年8月、令和6年8月実施

○キャリア教育出前授業

- ▶ 市議員が、小中学校に出向き授業を行う事業（3人1組で実施）
- ▶ 市教育委員会指導主事及び市校長会と協議する中で、8月開催の「子ども議会」の準備として、比較的時間のとりやすく、かつ定例会のない5月とした。
- ▶ 【目 的】 次代を担う子どもたちに議会の在り方や地方自治、また主権者としての在り方を学習し、子どもたちが地域社会の一員としての意識を高め、政治や社会に対する理解を深めること。
- ▶ 【対 象】 市内小中学校17校のうち小学6年生、中学3年生(全22クラス)
- ▶ 【内 容】 子ども議会研究会にて作成したスライドを用いて、授業の最初から最後まで議員が行う。
授業時間は小学校45分、中学校50分の1コマ
議員はチームでしっかりスライドの練習をし本番を迎える。

○スライドの内容

- ▶ 社会科に即した内容
地方自治や地方議会の仕組み
- ▶ 実際の議会の流れ
給食無償化や
児童生徒に貸与されたPCなど
学校現場で認識しやすい事例
- ▶ 議員とは
議員の仕事や日常、
議員になるには、
選挙、投票の仕方



	小学生版	中学生版
社会科として		9ページ
議会運営	20ページ	14ページ
議員とは	16ページ	20ページ

○授業の様子



- ▶ 授業時間に収まるようチームで練習をし、スライドどおりに進行。
- ▶ スライドには簡単なクイズもあり、児童生徒が参加できるよう工夫。
- ▶ 事前質問は設けず児童生徒からの自由な質問や意見にしっかり回答する。

○学校側の反応

A学校

- 中学校版がより社会科の授業に沿っていて良かった。
- 授業の進め方が上手な議員がいた。

B学校

- 普段会うことがない議員さんに話が聞けて良かった。
- 質問時間まで到達できなかったので後日質問を出した。

C学校

- 授業を受け、市議会議員に興味を持った児童がいた。
- 色んな方が関わって自分たちの地域がある事を再認識した生徒もいるのでは。

○印象に残った児童生徒の意見

- ▶「市の主役は市長でも、議員でもなく市民である事を学び、自分の意思を持つことを大切にしたい。」
- ▶「もっと興味を持って地域や市、選挙の事を考えたい。」
- ▶「議員という仕事に興味を持ちました。」
- ▶「身近に感じられ、わかりやすかった。」

よく聞かれた質問

- ▶「議会のない日に何をしてるのか？」
- ▶「なぜ議員になったのか？」
- ▶「議員になる前となった後の心境の変化は？」
- ▶「常に心掛けていることは？」

○これまでの成果

- ▶ キャリア教育出前授業を受けた児童生徒数。

	参加児童	参加生徒
令和5年	232人	242人
令和6年	207人	232人

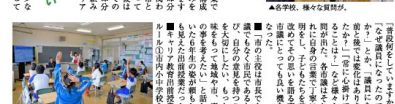
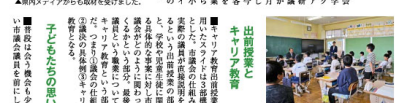
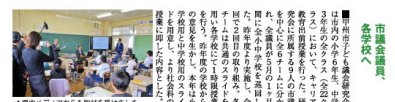
- ▶ 地元の新聞やTVでニュースに。
- ▶ 地元のCATVで特集番組を放映。
- ▶ 議会広報紙で特集ページを作成。

市民、保護者へ
事業の周知、報告。
家庭、地域内でも話題に。

- ▶ 8月開催の「子ども議会」がスムーズに。
- ▶ 出前授業を契機に議員向けのアンケートを作成し、自由研究を発表した児童が。



—市内全学校へ出前授業— 特集①



ご清聴ありがとうございました



◆パネルディスカッション2◆

(多様な人材の参画に係る課題に対する取組事例)

【コーディネーター】

辻 陽 氏 (近畿大学法学部教授)

【パネリスト (五十音順)】

赤嶺 奈津江 氏 (沖縄県南風原町議会議長)

澤部 慶 氏 (茨城県取手市議会事務局次長)

中村 清香 氏 (熊本県熊本市議会 議会局次長)

パネルディスカッション2 資料

赤嶺 奈津江 氏

沖縄県南風原町議会議長

開かれた議会を目指し 議会改革の取り組み

沖縄県南風原町議会

地方議会活性化シンポジウム2024
令和6年11月29日

南風原町の紹介

- ・人口：41,224人
(令和6年10月31日現在)
- ・議員定数
16人（欠員1人）
- ・男性議員 11人 ・女性議員 4人
平均年齢49歳
(令和6年7月1日現在)

任期：R4年9月28日～R8年9月27日



・琉球絣の里



・かぼちゃの産地

南風原町議会これまでの取り組み

「開かれた議会」を目指して

- ・議会中継の強化
- ・議員賛否の公表
- ・委員会の傍聴を原則公開
- ・議会広報の強化
- ・議会報告会の実施
- ・傍聴者へ議案の写し等の貸出

インターネットによる議会中継

- 本会議の庁舎内中継
平成10年6月に開始。



- インターネットによる議会中継
平成25年12月に開始。

- 令和5年9月より生中継には字幕を追加。

議会報告会の開催

～イオン南風原(イベント広場)～



第一部
議会報告会の様子



第二部
意見交換会の様子

議会報告会を通して町民の声を反映



議会報告会の開催要領で、『参加者意見で特に重要なものは町長へ文書で報告し、その対応を求める。』と規定。

- ・議長から執行部に報告書及び要望書を提出。
- ・町長より要望書に対する回答書が届く。

議会基本条例の制定までの軌跡(Ⅰ)

町議会議員の改選
(平成22年9月28日)

議会活性化調査特別委員会の設置
(平成23年6月17日)

第1回～第45回議会活性化調査特別委員会
(平成23年7月14日～平成26年6月6日)

第1回、第2回議会活動報告会の開催
(平成24年4月、平成25年4月)

議会基本条例の制定までの軌跡(2)

議会基本条例(素案)を執行部へ提出し、
意見交換会を開催(平成25年11月5日)

南風原町議会基本条例が可決
(平成25年12月25日)

政務活動費の交付に関する条例制定
(平成26年3月)

第3回議会活動報告会の開催
(平成26年5月)

議会活性化へ更なる取り組み



・地方議員は、住民にとって一番身近な存在

誰でも挑戦できる環境と情報を

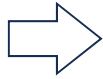
- ・発信力の強化
- ・議会の見える化
- ・情報の共有
- ・迎え入れる環境整備

私の選挙

- ・選挙に出る際、夫はOK。 義父母が大反対。
- ・子どもたちの理解と協力
- ・実家の応援
- ・お金をかけない選挙

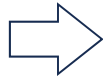
議員になって

- ・先輩議員の姿勢



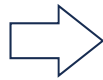
後輩に多くを経験させるように配慮してくれた。
男女関係なく、表に出るように背中を押してくれた。

- ・相談できる体制



困ったり、悩んだりしたときには、先輩議員も事務局も相談しやすい雰囲気を作ってくれ全体的に議員を支える環境が整っていた。

- ・育児休業などの推進



育児や介護が会議規則に明記される前から、先輩議員、町長も必要であれば取得するようにと励ましてくれた。

現在

- ・南風原町で女性として初の議長就任。
副議長に同期の女性議員が就任し、沖縄県で初の女性正副議長となる。
- ・議員の世代交代が進む中、
14年ぶりに議会活性化調査特別委員会を設置。

求められる多様性の中で

- 登庁することの意義  議会のオンライン化が進む中で、登庁することの意義をどう位置づけるか。
- 執行部との協働  議会だけでは解決できないことが多い。予算化を含めた、受け入れる体制が必要。

未来へ引き継ぐバトン

- 先代から受け継いだ議員活動がしやすい環境整備を常に意識
- 多様な人材が参画しやすくなるようデジタル化の検討
- 地域愛を育てることで、若い世代が自分たちの力でまちづくり
- 次世代に繋いで更なる活性化

ご清聴

ありがとうございました。

パネルディスカッション2 資料

澤部 慶 氏

茨城県取手市議会事務局次長

取手市議会 × オンライン

オンラインの経験から見えてきた 新たな社会の“選択肢”

茨城県取手市議会・同議会事務局

(取手市議会事務局次長 澤部 慶)



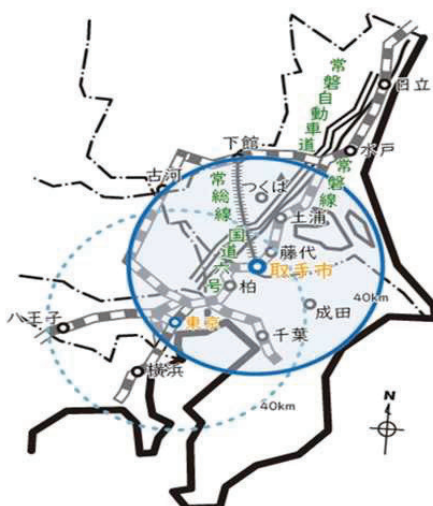
茨城県取手市・取手市議会の紹介

○ 取手市議会の紹介

- 定数・現議員数 24名（男性 16名、女性 8名）
- 定例会（年4回）※ YouTubeライブ配信で本会議・委員会とも配信
- 常任委員会 3委員会（総務文教・福祉厚生・建設経済）
- 特別委員会 1委員会（一般会計予算・決算審査）

○ 取手市の紹介

- 茨城県の南端に位置し、東京から茨城に入る玄関口
- 面積 69.94km²（東西 14.3km／南北 9.3km）
- 交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境
利根川と支流の小貝川が流れる、水と緑に恵まれた地域
東京・成田・つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置
（東京都心から電車で約40分）
- 人口 105,972人（令和6年11月1日現在）



議会 I C T ・ オンラインの取り組み

令和2年

- ・ 新型コロナウイルス拡大による緊急事態宣言（4月7日）
- ・ **初めてのオンライン会議**（取手市議会災害対策会議・4月8日）
- ・ 官民学連携の「デモテック戦略協定」締結（7月）
→ 新しい基盤であるオンラインを活用した議会のあり方を
官（議会）・民（事業者）・学（大学）連携で課題抽出・解決
- ・ 取手市議会タブレット端末導入（8月）
- ・ タブレットを用いて本会議表決（9月）
- ・ ペーパーレスによる議会運営スタート（10月）
- ・ **オンライン委員会を初めて開催**（11月）

令和3年

- ・ 官民学連携の「音声テック協定」締結（4月）
- ・ **オンライン委員会でオンライン表決**（6月）
※ この年は大半がオンライン形式に
（委員会38回・各種会議やオンライン視察を含めると55回）

議会 I C T ・ オンラインの取り組み

令和4年

- ・ 委員会条例を再び改正し、オンライン委員会の開催要件を緩和（2月）
→ これまでの「会議を招集することが困難な場合」に加え、委員個々の事由（疾病や看護、介護、育児など）をオンライン開催の適用要件に

令和5年

- ・ 本会議における欠席議員によるオンライン質問を制度化
※ 取手市議会では現在のところ適用事例なし

令和6年

- ・ 委員会での委員長・副委員長選挙で電子投票を導入（2月）
→ **委員会については、ほぼ全ての議事がオンラインで完結可能に**

現在のオンライン活用状況

議会内の各種会議（議会を止めない・円滑な運営のため）

- ・ 委員会（常任委員会・議会運営委員会・特別委員会）
- ・ 会派代表者会議・災害対策会議・感染症対策会議・市民との意見交換会ワーキングチーム会議など多種

行政視察（人数・距離・移動の制約なく、最大限の効果を）

- ・ オンライン現地視察
- ・ オンライン視察も含めた行政視察の受け入れ

住民参画（オンラインを活用することによる効果の増進）

- ・ 中学生との協働事業
- ・ 市民との意見交換会

オンライン委員会



令和4年6月15日 福祉厚生常任委員会（通常配信）

取手市議会公式チャンネル
チャンネル登録者数 918人

チャンネル登録

（引用：YouTube取手市議会公式チャンネル）

【実績】

令和2年6回・令和3年38回・令和4年18回
令和5年2回・令和6年（11月11日現在）4回

取手市議会での運用

【映像】

委員一人一人の表情が見えるように、全員がタブレットで自身の顔を表示

【音声】

ハウリング防止のため、会議室参加の委員の音声はマイク経由で

【運用】

会議開会予定時刻の1時間前までに申出があり、委員長が許可した場合、オンライン形式へと切り替え可能

※ あくまで取手市議会の例となります。

委員会での360度カメラ動画配信



(とりで障害者協働支援ネットワークの皆さまと意見交換)

導入の経緯は右の二次元コードからも →



- ・障害があつて議会の傍聴に行くことが難しい方に向けた取り組み
- ・「会議室での傍聴により近い形で、会議の様子を見ることができるようには」という観点

(令和4年1月から導入)

【特徴】

固定された映像ではなく、配信を視聴する方の操作で、360度・全方位に、見たい角度で視聴することが可能に

現在、多くの委員会で、通常のライブ配信+360度カメラでのライブ配信という、2系統での動画配信を実施

オンライン視察（取手市→他自治体）

視察先へは
委員2名のみ→



(引用:YouTube取手市議会公式チャンネル)

【左の写真の様子】

令和5年1月・2月 建設経済常任委員会

- ・2市1町へ数名ずつ派遣
山形県(南陽市)・福岡県(嘉麻市)・三重県(菰野町)
- ・残りの委員と執行機関職員はオンラインで参加
(ハイブリッド型行政視察)

⇒ 効果的な行政視察を実現

上記の例以外にも

- ・総務文教常任委員会・建設経済常任委員会：
委員は現地で、委員外議員はオンラインでのハイブリッド視察
- ・会派行政視察 参加予定の議員の疾病に伴い、同様のハイブリッド視察

オンライン視察（他自治体→取手市）



先日完全オンラインで視察いただいた議会様に、視察後にお聞きしました。

今回、完全オンライン視察でしたが、
現地視察との差は感じましたか？

- オンラインだからといって、全く支障はなかった。十分に理解できた。
- 施設視察など、実地で視察することの良さもあると感じる。
その一方で、「取手市議会の取り組みについて」のように、資料を基にして説明を受けるタイプの視察だと、資料も十分だったこともあり、オンラインとの差を感じなかった。

【実績】

令和2年度9団体（初めての受け入れは7月）・
令和3年度23団体・令和4年度8団体・
令和5年度なし・令和6年度（11月11日現在）4団体

オンラインを住民参画でも

議場では（各クラス代表グループ）



そのとき、教室では（代表以外の生徒）



（一例）中学生との協働事業

- 学年全生徒数110人あまり
- 各クラス代表グループのみが議場へ
- 残りの生徒は教室で

×
オンラインの工夫

- YouTubeライブ配信
（通常の本会議の運用の応用）
- 提出議案の表決は教室からも
（通常のオンライン表決の応用）

⇒ 議場の物理的制約（人数制限）を乗り越えて、誰一人取り残さない共通体験とすることに成功

取手市議会議員の皆さまに 経験を踏まえてお聞きしました



岩澤議長



石井副議長



取手市議会ではオンライン会議を積み重ねてきました。
「育児や介護」と「オンライン」の関係について、改めてどう感じますか？

- 議員活動と育児・家事を両立させることは本当に大変なこと。
家族や周囲の方々の協力をお願いできる人もいれば、なかなか難しい人もいる。
私の家庭ではコロナ禍のとき、子どもの学校が休校・オンラインとなり、学校に通えない時期があった。
そんなとき、取手市議会にオンラインという選択肢があって、本当にありがたかった。
- コロナ禍当時、わが家には3人の小学生の子どもがいた。
3人とも学校が休校になり、オンライン授業をそれぞれ受けていた。3人とは別の部屋でオンライン会議に参加するに当たり、部屋や通信環境の確保に苦労した思い出があるが、それでもオンラインという選択ができて良かった。
自分自身も委員会の日に発熱したことがあったが、そこまで高熱ではなかったのも、オンライン出席で委員会に参加することができて良かった、ということもあった。

取手市議会ではオンライン会議を積み重ねてきました。

「育児や介護」と「オンライン」の関係について、改めてどう感じますか？

- 自分が直接的に介護する立場にあるわけではないが、これからの社会を考えたとき、育児と議員活動の両立の問題と同じ程度に、介護と議員活動の両立の問題、そしてそのときのオンラインの意義や有益性が高まっていくのではないかと感じている。アフターコロナの中、「オンラインはもういいや」といった、オンラインを避ける雰囲気を感じることもあるが、オンラインを「外す」のではなく、オンラインを「使う」ことの利便性にもっと目を向けても良いのではないか。これは介護の問題でも、育児の問題でも、全く同じことだと思う。同時に、普段から慣れ親しんでおくことで、災害や感染症のまん延といった、万一の際の備えにもなっている——そのような日頃からの意識も大切だと思っている。

取手市議会ではオンライン行政視察を行い、またお受けしています。

視察をオンラインで行うということについて、どう感じますか？

- ◆ 宿泊を伴う行政視察だと、習いごとの送迎をどうしよう、食事どうしよう…と、かなり前の段階から、自身が視察に行く間の子どものサポートの計画や準備に追われる。行政視察に行ったとき、視察時間と移動時間のバランスを考えてしまうこともある。「オンラインで取り組みを聞くことができる」という選択肢があると、そういった課題の多くが一気に解決され、子育て中の視点から見ると、とても魅力的だと思う。
- ◆ 出産してからしばらくの間、視察に行きたくても行くことができなかった。学びたくても学ぶことができず、ジレンマを感じたこともある。実際に自身で見て、体感した方が良い視察もあるので一概には言えないが、視察の目的とオンラインの手法が合致するような内容の場合には、非常に有益だと感じる。

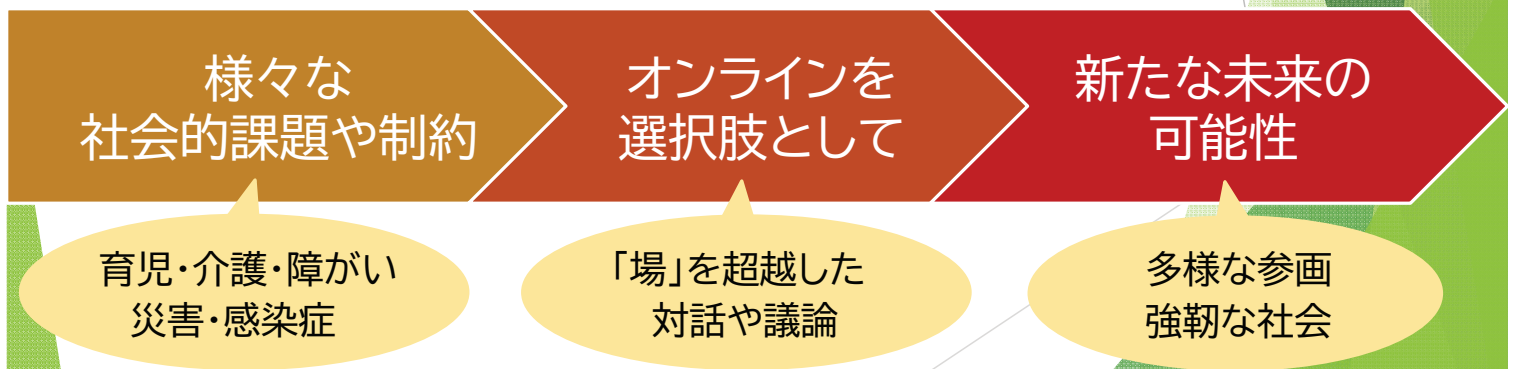
取手市議会ではオンライン行政視察を行い、またお受けしています。
視察をオンラインで行うということについて、どう感じますか？

- ◆ 委員会のハイブリッド型行政視察で、オンライン視察と現地視察のどちらも経験した。現地の空気感や担当職員の方の熱量といったものは、やはり現地のほうがより体感できたし、実際に自身の目で見たことによる気づきもあった。とはいえ、ほとんどのことはオンラインでも十分理解できたし、インターネットや書籍で調べた知識と比べると、比べ物にならないほどの多くのことを学ぶことができた。これまでのように「全員が同じ場所に行く」という必要性そのものがなくなってきたように感じる。

オンラインとリアルのこれから

それぞれにメリットがあり、それぞれに強みがある——。
そのことに気づかされたコロナ禍、そして取手市議会の取り組みでした。
これからを考えたとき、「どちらかでなければならない」のでしょうか。

「選択肢」「手札」としてのオンライン



パネルディスカッション2 資料

中村 清香 氏

熊本県熊本市議会 議会局次長

熊本市議会における 障がい者への合理的配慮

熊本市議会 議会局 次長 中村 清香

熊本市議会の事例紹介

1. 議場等施設での配慮
2. 議会運営での配慮
3. 視察、出張等での配慮
4. その他の配慮

熊本市議会の事例紹介

1. 議場等施設での配慮
2. 議会運営での配慮
3. 視察、出張等での配慮
4. その他の配慮

1. 議場等施設での配慮

議会棟におけるバリアフリーの課題

【課題の一例】 ※平成11年(1999年)当時

- 議場 → 演台の高さが、車椅子の登壇者に全く合わない。
- 傍聴席 → 車椅子用のスペースが狭い。
- ロビー待合ほか
→ 段差がある。
共用の部屋のドアが、ガラスの開き戸。

1. 議場等施設での配慮

課題への対応

議会事務局と議員本人、障がい者団体、本市障がい福祉関係部署等との協議を重ね、平成11年度に施設の改修等を実施。

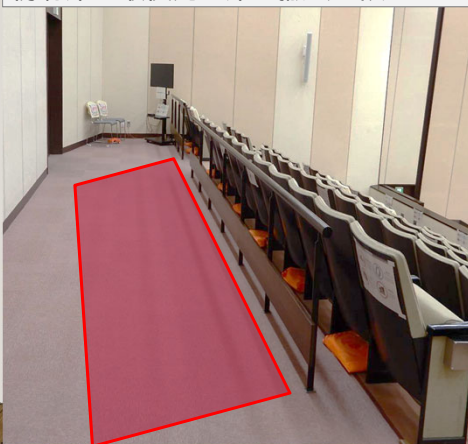
演台⇒昇降式の演台を設置



1. 議場等施設での配慮

課題への対応

傍聴席⇒最後列の席を撤去し段差ないエリア新設



1. 議場等施設での配慮

課題への対応

3階中央ロビー⇒階段の一部をスロープに改修



ガラス開き戸⇒引き戸に改修



1. 議場等施設での配慮

その後の対応

議場「質問者席」の椅子⇒車椅子でも使えるよう固定された椅子を撤去



熊本市議会の事例紹介

1. 議場等施設での配慮
- 2. 議会運営での配慮**
3. 視察、出張等での配慮
4. その他の配慮

2. 議会運営での配慮

起立採決の特例

会議規則「表決を採るときの方法は、起立及び投票の2種とし、議長がこれを定める。」

➤ 議会運営に関する申し合わせ

起立採決の特例「起立が困難な議員に限り、挙手を起立とみなす。」

(H11. 5. 18各派代表者会議)

➤ 採決時議長発言

「起立を求めます」

→ 「起立または挙手を求めます」

(H11年第4回定例会～)



熊本市議会の事例紹介

1. 議場等施設での配慮
2. 議会運営での配慮
- 3. 視察、出張等での配慮**
4. その他の配慮

3. 視察、出張等での配慮

委員会等の行政視察 における介助者同行

➤ 介助者の旅費

障がいのある議員が
出張する場合、介助者
への旅費支給を認める。

(議会運営に関する申し合わせ)



政務活動費における対応

➤ 宿泊料について

身体上の理由等特別の事情により上限額以下での宿泊ができない場合はこの限りではない。

➤ 同行者の取扱いについて

議員に同行する補助者等に係る費用は、議員本人の身体上の理由から介助が必要な場合に支出することができる。

（熊本市議会政務活動費の交付に関する条例施行規程）

熊本市議会の事例紹介

1. 議場等施設での配慮
2. 議会運営での配慮
3. 視察、出張等での配慮
- 4. その他の配慮**

4. その他の配慮

【災害時の対応】

- ・ 庁舎自衛防災消防隊において「車椅子対応班」を編成
- ・ 避難訓練時に救護用担架を用いて階段での移動を実施



4. その他の配慮

【議員間の理解促進】

- ・ 改選後、新たに議員となられた方向けに、車椅子に関する講習会を実施。



障がいがある議員への配慮で心がけていること

- 出張の場合は、ご本人の意向を事前に確認し、調整が難しいことがあれば相談するなどして、都度対応している。
- 障がいに関係なく行えることについては、特別な対応はせず、ひとりの議員として尊重している。

(了)

